✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧

✧　バングラデシュ国気象観測・予測能力向上へのプロジェクトについて（第 3 報）

10 月号に引き続き、バングラデシュ国（以下、バ国）「気象・予測能力向上プロジェクト」（測器校正・保守管理）の対象機関であるバ国気象局（BMD）の紹介をいたします。

本業務は、バ国内の気象観測の精度にかかわる BMD の気象測器の校正能力を向上させることにあります。

写真　フース型水銀気圧計

BMD には国家気象準器としてフース型気圧計（水銀気圧計）とガラス管温度計（水銀式）がありました。しかし、気圧計は 1980 年代半ばにインド気象局（IMD）の国家準器と比較され 1000hPa 付近での補正値は決められていましたが、それ以降は国際的、国内的に上位の準器と比較した記録はありません。また温度計は「BMD 準器」と称しているものの国際的に比較された形跡がなく、補正値（誤差）も明示されていません。また、気象測器の校正を行うための設備として、水銀式気圧計が格納できる気圧槽、ガラス管温度計用の液槽と自記式温度計用の気槽、湿度計用の気槽がありました。いずれも 1980 年頃に UNDP の支援で導入されたもので、過去 10 年以上使われた様子がありませんでした。

BMD では、国家気圧計準器と通常状態で比較して誤差が±0.3hPa 以内に調整した複数のフォルタン型気圧計を巡回用準器として使用しています。巡回用準器と各観測所の気圧計の誤差を±0.3hPa 以内になるように調整（水銀の交換等も自前で行う）し、観測時には器差補正を行います。温度計は購入後数年間寝かせた（Aging）ものを、使用前に準器と比較し、常温での誤差が±0.3℃以内であればそのまま使用し、観測時の誤差補正が行われていません。

このような状況を改善するために、本業務では国家気象準器として RIC つくばで校正したデジタル気圧計および二重管温度計、巡回用準器として複数のデジタル気圧計および二重管温度計、測器校正装置として RIC つくばに設置されているもの同等品を携行機材として BMD に導入しました。また、BMD 担当職員を招き、本邦研修を実施するとともに、BMD に導入した準器および校正装置を使用した現地研修も実施し、気象測器の観測精度の維持・向上を進めたものです。

本業務の中で確認したところ、BMD の国家気圧計準器の通常状態での誤差は 0.27hPa、国家温度計準器の常温での誤差は 0.3℃であることが判明しました。短期間で BMD が所有する全ての気圧計、温度計を校正することはできませんが、今後 2 年ほどをかけて BMD 担当者が校正を行い、誤差補正を行った気圧観測、温度観測が行われる予定になっています。今回は、気圧計と温度計の校正に限り実施しましたが、本業務の成果が BMD に根付くようであれば、他の気象測器にも及んでいくものと期待されます。

（振興部）